

INIAD CS Essentials 2

9-2 : Djangoの基本

①

ページ追加の基本

ここからの手順では、前回の講義で作成したblog_sample にページを追加していきます。

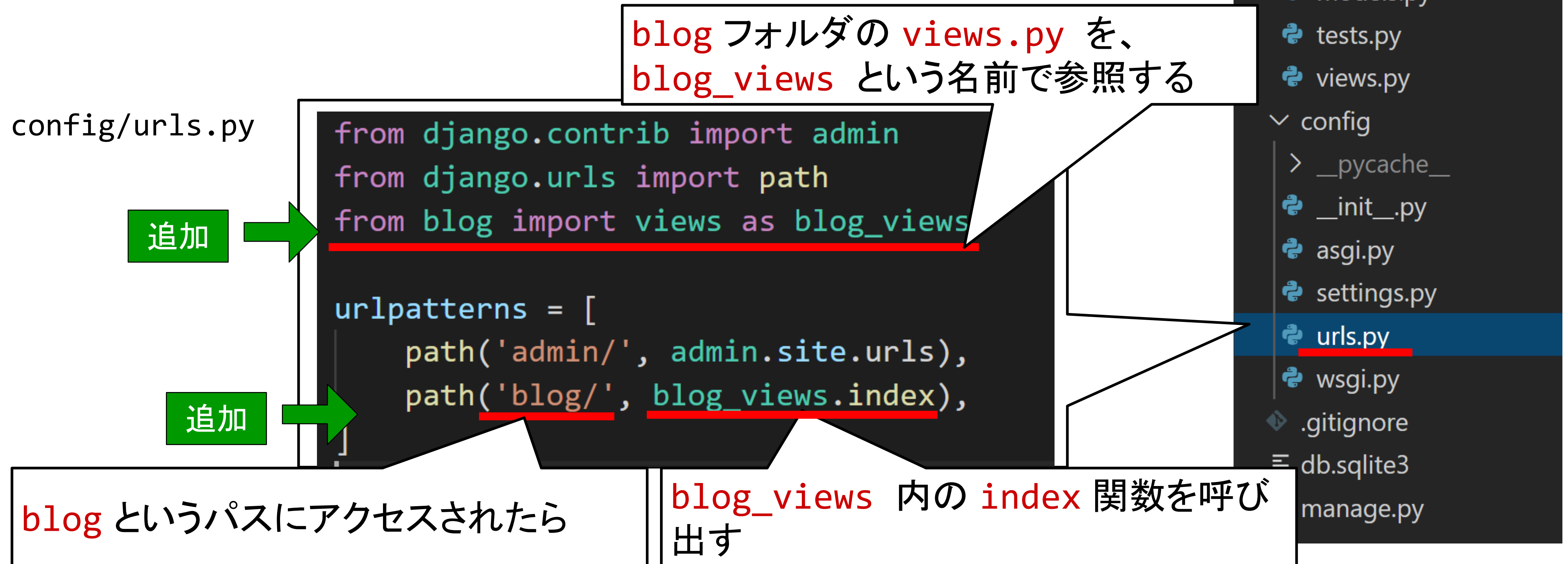
ページの追加に関するWebサイトとWebアプリの違いについて

- HTMLのみで作るWebサイトならば、1ステップ
 - HTMLファイルを作る
- Djangoの場合は3ステップ
 - 「URLディスパッチャ urls.py」の設定をする (Python)
 - views.pyにページに対応する関数を作る (Python)
 - 表示用のHTMLファイルを作る (HTML+α)

✓ 実際に次のページの手順で動作を確認してみましょう！

urls.py = URLディスパッチャ設定

- URLディスパッチャの設定は urls.py に書く
- urls.py は全体設定用が1つあり、アプリごとにも作れる
- 最初に、config フォルダ内のurls.py(全体用)が読み込まれる



views.py = コントローラ

- urls.py で指定した「index」関数をblog/views.py に作成する
 - 第1引数は必ず request とする
- 関数の中では必ず HttpResponse オブジェクトを返す必要がある
(HttpResponse はDjangoが用意するレスポンスのためのオブジェクト)
 - HttpResponse は、コンストラクタの引数に渡した文字列をHTTPで返す
 - 今回は単純に「Hello Django」という文字列を返す

blog/views.py

追加

```
blog > views.py > ...
1  from django.shortcuts import render
2  from django.http import HttpResponse
3
4  # Create your views here.
5  def index(request):
6      return HttpResponse('Hello Django')
7
```

引数に表示したい文字列を入れる

```
▼ BLOG_SAMPLE
  ▼ blog
    > __pycache__
    > migrations
    ⚙ __init__.py
    ⚙ admin.py
    ⚙ apps.py
    ⚙ models.py
    ⚙ tests.py
    ⚙ views.py
  ▼ config
    > __pycache__
    ⚙ __init__.py
    ⚙ asgi.py
    ⚙ settings.py
    ⚙ urls.py
    ⚙ wsgi.py
  .gitignore
  db.sqlite3
  manage.py
```